

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200461		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール宮 グループホーム2F		
所在地	愛知県一宮市小信中島字東鶴平28番地1		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成29年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念である「笑顔の暮らし支えます」の基に、4つの軸を大切に支援しています。</p> <p>①利用者様・ご家族様の思いを大切にします。</p> <p>②利用者様と地域との繋がりを大切にしています。</p> <p>③利用者様ひとりひとりの生活を支えます。</p> <p>④利用者様と共に笑顔あふれる場所を作ります。</p> <p>理念・4つの軸の基、個々の生活・症状に合わせて、入居者様に寄り添い、笑顔溢れ暮らすことが出来る様、支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>現在は「一宮市小信中島」の地名だが、元は旧尾西市であり、地域の人々も、一宮市民と言うより、尾西市への帰属意識が強い地域である。母体は一宮市と、木曾川を挟んで、岐阜県羽島郡地域・西濃地域に介護施設を展開する営利法人である。ホームは一階に小規模多機能を併設しており、地域の在宅での自立を支援している。在宅での介護が難しくなり、ホームに入居するケースもある。ホームでは看取りも視野に入れているが、経験はない。過去に状態が悪化して、グループ内の老人ホームに転居して4日でなくなったケースはある。管理者は他施設での看取り経験はあるが、「やはり職員の、特に夜勤時の看取りの不安が解消できない」と語る。ただ「看取りではほとんどの家族が『ここで送ってもらってよかった。有難う』と感謝されると語り、『生死は時間軸でつながっている』と悟った」と語る。聞き取りをしたチーフは「私たちは黒子」と常に職員に介護職としての自覚を促し、感化している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念啓示をおこない、毎日の申し送りや唱和の中で理念を意識した中、日々の支援委関わっている	「笑顔の暮らし支えます」を理念とし、それを実現するための4つの基、①入居者・家族の思いを大切に…②地域とのつながりを大切に…③一人一人の生活を支え…④入居者と共に笑顔あふれる場所を作る…を心がけている。ただ入居者は近所の方ばかりではなく、地域との連携は道半ばだと管理者は感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方との交流や自治会の参加・地域のおまつりに参加するなど、法人全体で交流している。 また、近隣の方との挨拶も心掛け取り組んでいる	町内会に加入し地域の祭りでは、神輿がホームに立ち寄り、入居者は記念撮影している。昨年ホームのお祭りに地域の人を招待したが、地域の祭り直後であったため、参加者は少なかった。近所の方から雛人形を頂き、和室で飾っている。ホームフェンスには「介護相談受付中」と掲げられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて施設イベント時に、介護相談会を開催したり、近隣への散歩等で、地域との関わりが出来る様取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、利用者様の状況や職員状況を報告したり、施設での出来事を写真による説明を交えながら、報告している	地域代表として民生委員、地域包括職員・管理者・職員が主なメンバーで、時々家族も参加する。より多くの家族が参加する策を検討中である。目標達成計画に掲げた「職員のスキルの差をなくす」ために、認知症・権利擁護・リスクマネジメントの研修を重ね、会議ではその旨報告され、レジュメも配布された。事故報告・改善策等も提示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例や苦情等について、必要に応じ連絡を取り合いながら施設運営を行っている	管理者は市へ月一回程度は出かけ、介護課だけでなく、入居者の生活に有用な情報を仕入れ、介護課にはホームのパンフレットを陳列している。市と連携して、引きこもり高齢者を外へ連れ出す「お出かけ介護」や、スーパーで介護相談も実施した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が自由に生活できるよう、ユニット会議やカンファレンスの中で話し合い、身体拘束をしないケアを心がけている	現時点で「月一回、短時間での拘束あり」との情報提供から実情を尋ねたところ、下肢筋力が衰えているが、車いすから立ち上がろうとし、転倒防止のため、医師の指示もあり、ベルトを使用している」との回答だったが、訪問時には解除され、確認できなかった。職員のスキルの差で、スピーチロックがあると管理者は感じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員理解が深められるよう研修を行い、身体拘束・高齢者虐待がないよう職員一人ひとりが自覚を持ち支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の計画の中で、研修実施を行い職員間で周知出来る様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が不安にならないためにも利用開始前に説明を行うだけでなく、書面を利用することで十分な説明と契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の意見・要望確認と、面会時に確認し管理者へ報告。会議等で検討する。 また、玄関先に意見箱を設置し、意見がある場合、運営に反映出来る体制となっている	家族会はないが、ホームのお祭りなどに家族を招待し、その後懇談している、ホーム便りは毎月発行され、家族に届けられている。『生活継続の支援』と言う地域密着の理念実現、また家族の要望もあり、日常生活でその人に合った家事の役割を担ってもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングで積極的に意見交換・提案をするとともに適時、報告・連絡・相談をするよう努めている	月一回ミーティングで、入居者の変化の気づき、シフトの要望、など聴取している。ただ統一事項・記載事項の不徹底など見られたため、確実に実行できるまでミーティングを月2回開催し、職員の底上げを図っている。法人として人事考課・雇用更新面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員の実績や努力を評価している。また、個々の就業環境に合わせて、シフトや配属を調整している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修教育委員会を設けており、定期的な研修に取り組んでいる。また、タイムカード横に外部研修の案内を置き、参加の支援をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の案内を職員に提示しているが、自主的に参加する状況に至っておらず、今後の課題でもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人・ご家族と面談をすることで安心して生活が送れるよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望は初回面談・面会時に伺ったり不安なことがあればその都度電話で問い合わせをしていただくことで関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早めに入居できるように努め初期対応に努めている。また即入居できないこともあるため、早急な支援が求められる場合には系列施設(有料老人ホーム・小規模多機能等)の説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側からのニーズだけでなく、入居者様からの声を反映させながら、外出支援・レクリエーション・行事・個別支援に繋げられる様、努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時の付き添い・外出への御協力などでご協力頂いている。また面会がしやすい環境であり、日常生活の様子をお伝えするお手紙を出すなど、共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会をしていただいたり、馴染みの人と外出して頂くことで交流が途切れないよう支援している	入居者が地域の人ばかりではなく、馴染みであった場所へはなかなかお連れ出来ないかと管理者は語る。ただ、近所の知り合いが訪ねてきたり、かかりつけ医の受診には、ホームがサービスとして同行している。受診時顔見知りになつたりすると、よもやま話に花が咲く。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間だけでなく、施設全体での行事や散歩での関わりを定期的に行っており、利用者同士の会話や交流が出来るような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をしている利用者へのお見舞いに行くなど関係継続に努め、必要に応じて相談が継続できるような体制になっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・ご家族様からの意見を組み入れる様に努め、日常の関わりの中で表情や言葉から意向の把握に繋げ、その人らしい生活が送れるよう支援をしている	認知症が進み、白い食器に盛った白いご飯粒が、食事だと認識できない人には、黒い食器に変え、食欲をそそり、食事と認識してもらったり、昔からパンが好きなのをアセスメントから拾いだし、朝食はパンをお出しして、「その人らしさ」を守るため工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から生活史を伺い、記録にまとめ、職員がいつでも確認できる状態にし、個々に合わせて支援出来る様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書面情報以外に、本人様・家族様からの意見も踏まえながら、日常での支援に繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議の中で、カンファレンスを行うなど情報交換・検討をし、全職員が共有出来る様になっている	日常の介護記録、特記事項は「申し送りノート」で情報共有されている。本人・家族の要望は、主に、チーフ・リーダー・管理者等が聞き出す。カンファレンスには家族も参加して、プランに反映させている。入院時に感染し、食事を「食べさせられていた」入居者には、「自分の意思で」食べるよう支援し、復帰した例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の記録など記入したり朝夕の申し送りにより職員間で情報を共有し、会議での検証などから計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の中で利用者のニーズを伺い、活用したり、近所の喫茶店に行くなどその時々ニーズに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアに来ていただくなど、楽しみが作れるよう支援しているが、まだ協働できていない部分があったり、地域の事を把握出来ていない入居者様も居る為今後の課題である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には往診対応をしている。又は、提携外のかかりつけ医がある方はそのまま引き続き利用し、受診対応している。気になる点があれば相談できる状態である	往診対応の協力医をかかりつけ医としている入居者が多いが、積極的に変更してもらうことはせず、入居時に利用者と家族と話し合いをして、継続するか変更するかを決めている。これまでのかかりつけ医への通院のサポートをすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、訪問看護があり、個々の情報や気づきを伝え、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は面談・情報書により病院との連携を図り、定期的にお会いしている。また、面会時に情報を得たり、家族と連絡をとりながら医療機関との連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状により重度化した場合、ご家族・本人様の意向を基に、支援方法を検証し、医師・看護師と連携を図っている。終末期の対象者が出る場合も同様に努め、支援に繋げている	家族の看取り希望はあったが、現在のところまだ経験はない。かかりつけ医との連携がしっかりできれば看取りも対応したいと考えている。職員に対しては研修を通じて終末期の取組みについて教育している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故マニュアル・日々の研修の中で、対応出来る様進めているが、全職員のレベル統一が出来ていない為、継続して指導を続けていく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に年数回の防災訓練を行っている。施設内だけで行っているため、今後地域との協力体制もとっていけるよう検討課題としたい。	通常の防災訓練だけでなく夜間想定や風水害想定など様々な災害に対応できるよう努めている。地域との連携はこれからだが話を始めており、今後のさらなる取組みに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の理念唱和・研修を通して人格を尊重し利用者一人ひとり、プライバシーに配慮するような言動を心がけた対応をしている。	人生の先輩である利用者に対して正しい言葉遣いで丁寧な、それぞれの利用者に対して偏ること無く平等に笑顔で接することをホーム全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を確認し、自己決定できるように記録に残すよう心掛け、日々の支援に繋げている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に心掛けてはいるが、職員のペースになってしまうこともある。希望に沿った支援ができるよう改善していく必要がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	残存能力を活かし、自己決定・自己実現が出来る様努め、出来る限りどのような服が着たいか声をかけるよう心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きなどの片付けは利用者で行うことが多いが準備はごく少数の方のみの為、今後より参加してもらえる様支援していく必要あり	献立は利用者の意見を聞きながら職員が考えて手作りしている。食事は最大の楽しみなので、回転寿司などの外食や季節のイベント食(土用の丑、流しそうめん、餅つき)など工夫している。おやつ作りにも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は表にて個人の状態を毎日把握している。 水分量についてはコーヒーやお茶など食事以外でも提供し、確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフにより一部介助または、全介助にて口腔ケアを行い、口腔内のチェックをし、状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して定期的な支援を行っている	車いすで、起立できないが、尿意がある人には、自立心と尊厳確保のため、二人がかりでトイレで排泄介助に取り組み成功している。羞恥心の配慮には最大限気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操の時間を設け、体を動かせるよう働きかけている。また、便秘解消ができない時はDr.と連携し、薬による排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週1対1での支援を行い、2回の入浴を実施している。体調等により他の日に変更するなどの対応をしている。また、入浴できない時には、清拭や足浴により清潔保持をしている	週に2回は入浴できるようにし、気持ちよく清潔を保つ努力をしている。現在は利用者の希望の曜日や時間帯に入浴できる仕組みにはできていない。午後はアクティビティの時間があるため午前中に入浴していただくことが多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の中に、個々で使い慣れた馴染みある物を活用したり、ベッドだけでなく畳を活用して、以前の生活に近づける様配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は、二重チェックを行い、確実な服薬を心掛けている。処方箋内容をいつでも閲覧できるように個々のファイルに処方内容とその効果の書かれた用紙をとじておいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報書・日々の記録から、個々への計画を作成し、利用者一人ひとりの力を活かせる様、支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿っての適時の外出は難しいが、天候が良い時は散歩・喫茶店の活用などを行い、地域資源の活用・家族様の御協力をしている	散歩や喫茶店、日用品の買い物など日常的な外出の他、季節によって地域のイベントやお祭りにも出かけている。一宮の七夕祭りや138タワーには夜間に外出したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人によるお金の所持はしておらず、施設管理としている。必要なもの、欲しいものがある時はいつでも購入できる環境となっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を求め、可能な方には職員が施設の電話で支援したり、担当の職員が日々の様子を手紙にし、定期的に家族へ送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱がないよう、大きな日付・トイレの場所など分かりやすく目印をつけたり、季節感が分かる様な掲示物やなどで安心して過ごしていただけるよう心がけている	共用スペースには手作りの作品を飾り付けたり、ひな人形や正月飾り、またイベントで撮影した写真を貼ったりしている。音楽療法を取り入れて利用者でハンドベルをやったりし、リビングで楽しむアクティビティを充実させる努力をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とテレビ、ソファや畳のスペースがあり、気の合った利用者同士が思い思いに自由に過ごしていただけるよう心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンス、布団などをご家族が用意し、持ち込みいただき、自宅にいるように安心して過ごせ、居心地の良い空間作りをしている	家族に協力してもらい馴染みの家具や持ち物を持ってきてもらうこともあるが、写真や道具など小さな物をいくつか持ち込んで工夫して部屋作りをしている。畳を持ち込んですごされる利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはご自身で、できないことはお手伝いをし、自由に生活していただいている。また、居室の表札やトイレの案内がわかりやすくされていたり、手すりやバリアフリーで安全で自立した生活を送れるような支援をしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200461		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール宮 グループホーム3F		
所在地	愛知県一宮市小信中島字東鶴平28番地1		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念である「笑顔の暮らし支えます」の基に、4つの軸を大切に支援しています。</p> <p>①利用者様・ご家族様の思いを大切にします。</p> <p>②利用者様と地域との繋がりを大切にしています。</p> <p>③利用者様ひとりひとりの生活を支えます。</p> <p>④利用者様と共に笑顔あふれる場所を作ります。</p> <p>理念・4つの軸の基、個々の生活・症状に合わせて、入居者様に寄り添い、笑顔溢れ暮らすことが出来る様、支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様・職員が確認しやすいリビングに掲示し、職員が毎朝唱和することで認識し、実践していける様努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には、近所の方と挨拶を交わす等の段階であり、日々の連携は取れていない為、より関係を深めて行きたい。ボランティアの交流や、地域のお祭り参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援方法の活かしきれて無い為、更なる地域貢献を考えていきたいと思っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価表を全員に配布し、その意見をとりまとめて改善点があればその都度検討しているが、サービス向上へ繋げれていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者を中心に、連絡を取り合いながら施設運営を行っているが、現場職員との関わりはあまりとれていない		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、月1回程短時間で実施の対象となる方が居るが、会議やカンファレンスの中で検討し、出来る限り身体拘束をしないケアを心がけている。また、2月下旬で解除出来る様、毎月検証している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・定期の会議時に啓発は行っており、疑わしい場面では、互いに注意し合い、接遇を大切に虐待がないよう職員一人ひとりが注意を払い努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者は居ないが、研修で実施している。今後必要とされる利用者のためにも職員理解が不可欠であると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、書面を利用することで十分な説明と契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望について、行事参加時や面会時に確認し、管理者も交え全体で検討している。また、玄関先に意見箱を設置する事で意見を取り入れやすい環境を作り、運営推進会議でも、課題検討する様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換・提案をするとともに適時、報告・連絡・相談をするよう努めているが、反映しきれて無い事も多い為、継続した努力が必要。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の実施・雇用更新面談を実施しているが、向上心を持って働ける環境には不十分		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだまだ把握不足な事が多い為、今後の課題		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流も行えていない為、今後の課題である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人様との面談を行い、状態とニーズ確認を行い、周囲の支援者やご家族と面談を加えるで、より多くの情報から支援しているが、安心して生活が送れる環境までは不十分		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望は初回面談・面会時に伺ったり不安なことがあればその都度電話で問い合わせをしていただくことで関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談・アセスメントにより、必要な支援内容を検討している。また、相談の段階で、グループホームが適していない場合、系列施設の介護付き有料老人ホームや、小規模多機能事業所へ紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側からのニーズだけでなく、入居者様からの声を反映させながら、外出支援・レクリエーション・行事・個別支援に繋げられる様、努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時の付き添い・外出への御協力などでご協力頂いている。また面会がしやすい環境であり、日常生活の様子をお伝えするお手紙を出すなど、共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出を通じて、出来る限り自由に過ごす事が出来る様に支援しているが、馴染みの場所との関係性が継続出来て居ない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が協力しあえる様声をかけるが、互いに支え合う環境には繋ぎ切れていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をしている利用者へのお見舞いに行くなど関係継続に努め、必要に応じて相談が継続できるような体制になっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時・面会時などで、本人様・ご家族様からの意見を組み入れる様に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から生活史を伺い、記録にまとめ、職員がいつでも確認できる状態にし、個々に合わせて支援出来る様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書面情報以外に、本人様・家族様からの意見も踏まえながら、日常での支援に繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録・申し送り・連絡ノートを活用し、日々の状況・状態把握・気持ちの変化を記録し、現状把握に努めている。しかし、意見反映されない職員も居る為、今後の課題		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を通じて職員間で情報を共有する様にしているが、細やかな記録になっていない場合もあり、共有出来ない職員も居る為、今後活かす事が出来るよう努めたい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応に心掛け支援しているが、多機能的な取り組みまでは至っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員全体で地域資源の事を把握しきれていない為、今後の努力が必要		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には往診対応をしている。又は、提携外のかかりつけ医がある方はそのまま引き続き利用し、受診対応している。気になる点があれば相談できる状態である		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回、訪問看護があり、個々の情報や気づきを伝え、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は面談・情報書により病院との連携を図り、定期的にお会いしている。また、面会時に情報を得たり、家族と連絡をとりながら医療機関との連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状により重度化した場合、ご家族・本人様の意向を基に、支援方法を検証し、医師・看護師と連携を図っている。終末期の対象者が出る場合も同様に努め、支援に繋げている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアル・ユニット会議時・研修を行ったり、消防署員の方に救命救急の講習をしていただき、事故防止に取り組んでいが、実戦で動けない職員も居る為、継続して教育が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	四半期毎に、年4回、防災訓練を行い、対応法の教育・備蓄品への周知を図っているが、施設内だけで行っているため、今後地域との協力体制もとっていけるよう検討課題としたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	問題と思われる場面では、互いに指導し合ったり出来ているが、個々の教育を行っても改善に至らない職員も居り、今後の課題		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を確認し、自己決定できるように意図的に声かけを行っている。 自己決定が困難な場合、代わって支援するように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にと心がけてはいるが、職員のペースになってしまうことが多い。希望に沿った支援ができるよう改善していく必要がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員により衣類の決定・準備を行っており、個々の趣味や好みを生かせていない。 今後、入居者様と共に準備や、趣味や好みの把握に努め、支援して行きたい		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で、食の好みや会話を取り入れ、食が楽しみになる様に、支援している。 食器拭きなどの片付けは、協力頂ける利用者で行うことが多いが、調理・準備出来ない		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は、個々の記録で毎日把握している。習慣に関しては今後、入居者様の意見も取り入れたい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフにより一部介助または、全介助にて口腔ケアを行い、口腔内のチェックをし、状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表での、一人ひとりの排泄状況を把握しているが、排泄パターンまでは把握しきれていない。ADLの低下で、オムツ使用の方も居るが、出来る限りトイレでの排泄に向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表での運用で管理し、便秘解消ができない時はDr.と連携し、薬による排便コントロールをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日に、個々に合わせた湯量・湯温を整え、入浴剤も活用している。外出・体調等により入れない場合、他の日に変更するなどの対応をしている。しかし、入浴の日時・曜日について、職員で決定している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイル・居室環境で、適時に合わせ昼寝をしたり、夜間は個々に合わせて環境を整え、安心してお休みしていただけるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルで、処方箋内容をいつでも閲覧できるようにし、内容変更・臨時薬などは、申し送り・連絡ノートを活用し周知している。また、体調変化時には、Drと連携して、適した薬になる様連携している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1/3名ほどには残存能力を生かした日常作業を行ってもらい支援しているが、全員に対して個々の趣味・バックグラウンドに沿った支援の実施が出来ていない為、今後支援出来る様に努めていく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って外出は難しいが、日時・場所を職員で決めて、外出・外食支援を行っている。日常的な外出・地域の方との支援は今後の課題でもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人によるお金の所持はしておらず、施設管理としている。必要なもの、欲しいものがある時は、施設支援の基、購入できる環境となっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が進んで、電話のやりとりをすることは難しい。そのため担当の職員が日々の様子を手紙にし、定期的に家族へ送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい環境作りに努めている。季節に応じた掲示物の活用はされているが、居心地よい環境作りには、まだまだ努力が必要		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とテレビ、ソファや畳のスペースがあり、思い思いに自由に過ごしていただけるよう心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員では無いが、馴染みのタンス、布団などを持ち込みいただき、自宅にいるように安心して過ごせ、居心地の良い空間作りをしている。しかし、他者との交流が出来ないとの理由で居室で多くを過ごす方も居る		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはご自身で、できないことはお手伝いをし、自由に生活していただいている。また、居室の表札やトイレの案内がわかりやすくされていたり、手すりやバリアフリーで安全で自立した生活を送れるような支援をしている		